

私たちが行すべきイメージ戦略

～光と闇の戦いに勝つために～

○生かす愛－応病施薬

『大川隆法 初期重要講演集 ベストセレクション②』第3章 人を愛し、人を生かし、人を許せ... page.168

「こういうふうにしたら、その人はこうなる」「こういう教えを説けば、こういう反応がある」「こういう努力をしたら、こんな結果になる」、こういう原因・結果のプロセスが見えないと、正しく人を導くことは難しいのです。

それゆえに、幸福の科学で言っているところの「知識」あるいは「知力」というものは、実は「原因・結果のプロセスを見抜く力」であるというふうに言ってもよいでしょう。こういう種をまけば、こういう実が実るということを知ることです。これが大事なことです。

『幸福へのヒント』第4章 みんなで明るい家庭をつくろう

愛に関しては、基本的には、人を理解できるかどうか的大事です。「理解した」ということは、「愛した」ということと、ほぼ同義なのです。

愛せないのは、理解できないからです。「どうして、この人を愛せないのだろう」と思うかもしれませんが、それは理解できないからなのです。理解できたら愛せるのです。【中略】

人は、理解できれば愛せるのです。

対機説法についても同じであり、どれだけの人を理解できるかが大事だと思います。

○原因－日本人の“イメージ”を理解する

・「伝統的な宗教とは冠婚葬祭の専門業で、薬にも毒にもならない」という“イメージ”

→仏教、キリスト教が耐用年数を過ぎている

・様々な悪しき宗教が出ては社会的事件を起こしてきたために、「新興宗教＝悪」という先入観がある

→つまり「新興宗教に触れたら不幸になる」という“イメージ”を持っている

・精神医学の台頭によって「宗教家こそ心の医者」とは考えていない

→製薬会社が行った「うつは心の風邪」という“イメージ戦略”

邪神、悪質宇宙人、悪魔の“イメージ戦略”なのかもしれない

○プロセス－日本人のイメージを変える

・精神医学がいかに悪魔的なのかを知り、そしてそれを伝える

→精神医学の“イメージ”を変える(裏面)

・使命を忘れた宗教の悲劇を教え、宗教家こそ“心の医者”であることを教える

『幸福への道標』第一部 第1章 幸福への道標page.16

幸福の科学のねらいの一つはここにあるのです。いま、セミナーというかたちをとって、みなさんに勉強していただき、その結果について一定の資格を与えていますが、この試みには、「心の医者の有資格者を数多くつくりたい」という願いが込められているのです。

→宗教そのものの“イメージ”を変える

『幸福の科学』に集われし方々こそ、“光の戦士”にして“心の医者”

～世界一、精神病床の多い日本の現実～

【真の心の医者は精神医学の闇を知らねばならない】

I 科学的ではない「モノアミン仮説」と精神科医のバイブル『DSM 精神科医の診断・統計マニュアル』

→精神医学は他の医学を利用した虎の威を借る狐

II 向精神薬にある賦活症候群(アクチベーションシンドローム)

→「自殺」、「敵意」、「攻撃性」、「衝動性」、向精神薬がどれだけ大勢の人々の命を奪ってきたか

III 治療とは言えない記憶を奪うECT 電気ショック療法

→作家アーネスト・ヘミングウェイ、日本の子どもたちにも行われている拷問

IV 恐ろしい精神病院の実態(死亡退院は月2000人、50年以上入院は1773名)

→増える身体

より詳しく知りたい方は、コチラの動画『不幸な科学』をご覧ください→



・日本を築き上げてきた武士道も宗教であった事実を伝える

→「宗教とは本来、カッコ良いもの」という“イメージ”を与える

武士道の源流は天御祖神にあるが、弓削の道鏡らによって『ホツマツタエ』等は廃れた

神道の教えない部分を埋めてきた儒教と仏教、山岡鉄舟「武士道とは神儒仏融和の道念」

つまり“武士道の源流”と“武士道の復活”の歴史

○結果－素直に主の教えに触れてもらう

『不滅の法』／第1章 世界宗教入門

私は日本で数多く説法をしています、ある意味では、「最も難しいところの一つで説法をしている」ということになるので、「撃てども撃てども、なかなか弾が届かない」という面はあります。

日本人には、素直に話を聴く前に、まず宗教に対する先入観があり、それが壁のようになっています。「宗教を表の世界で扱わないことが常識だ」というような考え方が日本にはあるのです。

・「ターキー」と同様に一つの言葉に意味は付け加えられる

→“伝統宗教”も昔は“新興宗教”、新しいからといって“悪い”とは限らない“イメージ”を与える

・宗教とは“教育の原点”であり、“文明の源流”

→「アマラとカマラ」、「フリードリヒ2世」、「新渡戸稲造」のエピソードで肯定的な“イメージ”を与える

まとめ

「宗教は冠婚葬祭の専門業であり、薬にも毒にもならないが、ただし新興宗教は悪である」という人々の価値観を破壊し、

「宗教は教育の原点であり、文明の源流でもあり、精神科医ではなく宗教家こそ心の医者であり、魂の教師でもあり、『幸福の科学』に武士道がある」という価値観の創造を行う→すなわち“常識の逆転”

○「それでも自分に宗教は要らない」という人たち、“政治の腐敗”と“文明の崩壊”を招く

『大川隆法 東京ドーム講演集』第2章 新世界建設

この日本の地が救世の地として選ばれたか、その熱い念いが、いかほどのものであるか、あなたがたは悟っているだろうか。人類五十数億の運命が、今、日本人の手に委ねられているのである。そのようなときが来たのである。一つの民族に、それだけの運命が託されたのである。